

カビサールのご使用に際して

使用対象

すでにカビが発生しているあらゆる箇所

(カビの程度の激しい重度のカビ、発生時期から数ヶ月以上経過したカビに適応)

使用方法

対象物に既にカビが発生している場合は、次亜塩素酸ナトリウムを主成分としたカビサールを、スプレーガン、スポンジ、小ハケ等を使用して塗布し、数分から20分ほど接触させます。

カビサールを塗布した部分を、スポンジ、タワシなどで洗い流すか、雑巾で拭き取り、水分が無くなるまで十分に乾燥させます。

作業にはゴム手袋をご使用ください。

発生していたカビはこれで綺麗に除去され漂白剤の効果で元の状態に回復されます。(重度のカビの場合は、対象物の奥深くにカビが浸透している場合があり、その場合は繰り返し塗布し、しばらく放置する等、より時間と手間をかけての作業が必要です)

このようにしてまずこのカビをきれいに除去した後、適用場所、塗布対象に応じた「水性素材混入用カビ発生抑止剤インナーミル 550」、直接対象となる建材の表面に塗布して抗菌・防カビ化が図れるコーティング剤「ストップ THE カビ」、ビニールクロス、畳表、家具などに塗布する事により、細菌、真菌(カビ)から住まいを守ることのできる抗菌・防カビコート剤「ファイナルラップ C=Fラップ C」などをご使用ください。

今後のカビ再発生の心配はもう不要となります。

(防カビ剤の塗布は、対象素材が完全に乾燥した後でないと十分な効果を得ることが出来ませんのでご注意ください)

カビサールはカビの状況を見ながら、当初は薄めに希釈してご使用ください。

カビをきれいに除去できない場合には希釈せずに原液のままご使用ください。

また、カビサールは次亜塩素酸ナトリウムが主成分ですので、施工要領書等注意事項をよくお読みになってご使用ください。

特に、対象物がクロス(壁紙)、畳、じゅうたん、衣服等の場合には、本カビ取り剤の強い漂白機能のため変色する可能性もありますので、十分ご注意くださいの上作業をお進めください。(いずれの市販のカビ取り・漂白剤も同じ可能性を有しています)

このようなことが懸念される場合には最初は濃度を薄くして目立たぬ部分に塗り、カビの落ち具合、変色の有無に応じて濃度を上げるようにして作業を進めます。

(小皿上で水で2～3倍に希釈してご使用ください)。

標準使用量

1平方メートルあたり30cc～50ccを目安に必要量をお選びください。
カビの発生状況が酷い場合には日にちをおいて再度同じ作業をして下さい。

ご注意

カビサールはカビの程度の激しい重度のカビ、発生時期から数ヶ月以上経過したカビに適しています。

しかし、長年にわたりカビの発生、増殖が放置されていた場合には、発生したカビが対象素材の深部にまで深く浸透、凝固してしまい、カビサールがそこまで到達できず、そのカビ取り・漂白機能を及ぼすことが不可能な場合もあります。

ひび割れしたシリコンシーラントや木製品等に発生、しみこんだカビ等にしばしば見受けられます。

クロスも長年放置の結果、裏面にまでカビが発生した場合にはクロスの張替が必要となります。

また、表面にワックス・ニス塗装がされているフローリングの合板でこれら塗装の下に発生したカビの場合も除去することができませんので、ご注意ください

このような場合以外、カビに接触、作用できる場合には、ご期待にかなう効果を発揮します。

また、古文書、高級衣服、古美術品等に発生したカビについては、カビサールが高濃度であるためそのまま適用すると対象物を傷める可能性があります。

これら貴重品についてあえて適用される場合には、水で数倍に薄めてから一部極部で試した結果を確認しながら作業を慎重にお進めください。

作業中には換気に十分ご注意ください。

次亜塩素酸ナトリウムの強い刺激臭が長時間残る可能性がありますので、幼児、老人等が不在の時に作業をしてください。

特に換気性の低い室内の場合には、作業後10～24時間の換気をお奨めいたします。